

# 生徒の自律心の育成を主眼とした高等部カリキュラムの改善Ⅱ

## ライフキャリアとワークキャリアの視点による職業教育の課題整理と改善に向けて

和歌山大学教育学部

山崎由可里

和歌山大学教育学部附属特別支援学校高等部

○道上里砂 井上泰馬 宮崎美幸 北岡大輔 谷重男 久保田真由子 中筋千晶

小畑伸五 和田淳子 三木理恵子 久保田竜生 宗田直美 松下敦也 新宅誠子

### 1 はじめに

和歌山大学附属特別支援学校（以下和附特）高等部では、小・中学部からの内部進学者を対象とする普通科コース（以下Fコース）と、地域の中学校を卒業した入学者を対象とする普通科総合産業コース（以下Sコース）から成る2コース制を実施している。いずれのコースも、将来、働きながら社会参加していくことを目指している。近年、本校では生徒の障害の軽度化が進み、高等部28名中、約8割の生徒が軽度の知的障害、もしくは発達障害という診断を受けている。これらの生徒たちの特徴として、失敗経験による不安や過去のいじめ経験によるトラウマなど、軽度な障害ゆえの難しさを内面に抱える場合が多い。

このように、和附特高等部では近年変化している生徒の実態に合わせた学びを保障することを急務とし、平成24年度よりカリキュラムの改善に関わる実践検証を行っている。

始まりは、Sコース「セルフデザイン<sup>i</sup>」やFコース「キャリア<sup>ii</sup>」といった教科等合わせた指導の時間を新設することから始まった。それまでの高等部のカリキュラムや各教科の学習内容だけでは不足すると思われる青年期の心の持ちよう等を扱い、将来にわたり自分らしくよく生きるための土台作りにつながる学習内容の開発と実践研究に継続して取り組んでいる。

次に、平成27年度からの4年間、本校の研究テーマを「知的障害のある子どもの学び続ける力を育てる教科学習」と掲げ、伝え合い学び合う教科学習について実践研究を進めてきた。これにより、個別学習が中心となっていたFコースの生徒たちの「教科」学習を見直す機会となり、仲間との学び合いを重視し、知的好奇心を高める教科学習の充実をねらい、高等部全体のカリキュラム改編を行い、実践検証を行った。

これらのカリキュラム改善にあたっては、生徒自身が「学びたい」「役に立つ」と実感できることを大事にし、自分の人生を自分のものとして捉え、自律的に豊かに歩んでいくために青年期の入り口にある生徒に必要な学びになることを目的としている。

このように、カリキュラムマネジメントが進み、自分作りに重きを置いた教科学習や各教科等を合わせた指導によるライフキャリアの視点での学びの充実が進む中で、古くより和附特高等部が大切にしてきた職業教育についても、指導のねらいや単元設定、指導方法において、現在の生徒の実態に応じた見直しが必要であると感じられるようになってきた。そこで今年度は、生徒が自信をもって「働く大人」になっていくために必要な職業教育を目指し、和附特の職業教育の一つである「作業」の学習における現状と課題を明確にし、改善に向けて進めていくこととした。

### 2 経過

和附特高等部における職業教育として、現在週8時間の「作業」<sup>iii</sup>と年間3週間（計15日）を基準とする現場実習<sup>iv</sup>を行っている。高等部全体のカリキュラム改編に取りかかった平成28年度より前には、「作業」を週12時間（週時間の約4割を占める）実施しており、持続力や職場でのコミュニケーション力等の就業能力の向上を目指した職業教育としての「作業」に重きをおいていた。しかしながら、キャリア教育という視点でカリキュラムを見直したとき、仕事に関する技術・態度の体験的な学びだけでなく、将来の自分の姿に思いをはせることや働く人の権利、社会資源の利用も含め、主体的に就業を続ける上で必要となる知識を身につけることも大切にしたいと考え、Sコース「セルフデザイン」Fコース「キャリア」の時間を増設することでそれらの内容を扱うこととした経緯がある。

では、和附特高等部生徒の将来を見据え、今必要な職業教育とはどのようなものなのか。実際に指導に当たる高等部教員が共有できるよう、昨年度の終わりにブレインストーミング（1）を行った。

ブレインストーミング（１）「和附特高等部の職業教育とは」	
Q「作業」の学習と生徒の将来（進路）をどう結びつけて考えて指導にあたっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集中してとり組むということや、言われた仕事をこなすということ大切にしている。</li> <li>・ こなすだけではなく、社会の大きな流れの中で、自分が担っている仕事の意義がわかるように働きかけることが必要なのではないか（生徒の理解力によっては難しいこともあるが）。</li> <li>・ 自己決定が大切。生徒自身が考えて動く時間を保障できるのは「作業」なのではないか。</li> <li>・ 決まった方法が指示されないと動けない子もいる。→結果決まった方法から抜け出せない。</li> <li>・ 与えられた業務をおこなうという意味の「しごと」と自分以外の誰かの役に立つという意味での「はたらく」は本来違うが、生徒にとっては同じものになっている。時には先生も。</li> <li>・ 自分の作ったものが届く、届く先の人の顔を思い浮かべられるような働きかけも必要ではないか。</li> <li>・ 自分のやった仕事が次につながっている、「誰かのために」「人のために」が分かるように導きたい。「ありがとう」を言われたら、次の意欲につながる。</li> </ul>
Q「作業」でつきたい力	<p>判断力/持続力/集中力/実行力/あいさつ・返事/見通しを持った行動/報告・連絡・相談/コミュニケーション/時間・期限の厳守/安全/衛生/意欲・プライド/耐性/責任感</p> <p>「作業」は、どんな仕事にも通用する力を育む時間。</p> <p>「作業」の時間は先生も一緒にほたらく、そして生徒に尊敬される存在に。</p>
Q「現場実習」でつきたい力	<p>1年生 学校以外の社会を知る/社会人へのあこがれの気持ち</p> <p>2年生 自己理解/得意なことと不得意なことを受け入れる</p> <p>3年生 進路をつかみ取る気持ち/自分のこととして向かい合う/自己選択・自己決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現場実習の受け入れ先も本気で受け入れてくださるので、本人が日ごろ身に付けた力を確かめられるような準備をしっかりして望むことが大事。日々の指導や学びが大切。</li> </ul>
Q「進路学習（セルフデザイン／キャリア）」や「進路指導（個別指導）」で大切にしたいこととつきたい力	<p>生徒自身の「思い」を整える支援/環境の整備も含め本人に寄り添う視点/本人の納得/必要な我慢も含む自律の力/働く人の権利/コンプライアンス/マナー/大人になることへの希望/変化への対応力（気持ちの変化、環境の変化）。</p> <p>今悩んだりしていることをどう乗り越えていくかを生徒と考えることが大事。</p>

高等部での経験年数が少ない教員にとっては、「作業」「現場実習」「進路学習」との違いが判りづらく、それぞれの場面でどのようなねらいをもって取り組むべきか整理がつかないまま、日々の指導に取り組んでいるという悩みも出された。それぞれの教員が何をどう指導すべきか悩みながら取り組んでいる「作業」であるが、与えられた仕事をこなすという作業能力の向上だけでなく、生徒が主体性を持ち、卒業後も生き生きと働く生活を続けていけるようにするための力をつけることが目的となるであろうことが教員間で共有できた。これらをもとに今年度1学期の指導にあたり、ブレインストーミング（２）を夏休みに行った。和附特高等部では現在4つの作業班に分かれて「作業」に取り組んでいる。

ブレインストーミング（２）「作業」に取り組む中で感じること	
【エコ・ファーム（農作業）】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Fコース1年生の生徒は、中学部時代からの経験で培った力を発揮している。自分の特性をよくわかって、最後まで仕事をしようとする。</li> <li>・ 一方働くという経験がないSコースの生徒は、ただ言われたことをこなしている様子。声をかけないと集中できない。</li> <li>・ 同じ繰り返しという作業が少ないため、繰り返すことで定着するという経験がしづらい。</li> </ul>	
【工芸（さをり織り）】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初めての仕事を覚えるのに時間がかかる生徒たちは、行事などで取り組む時間が少なくなると定着が難しくなる。</li> <li>・ だからこそ、ただ仕事の手順を教えるだけではなく、覚えるときに工夫しようとする力（わからないことは聞く等）を引き出し、生徒自身の自主性を育む時間となるようにしたい。</li> <li>・ 授業参観時に母たちに注文をとることで、自分の取った注文に責任をもとうとできるように。</li> <li>・ ミシンでの製品の仕上げは全て教員がしているため、完成した製品に対し「自分が作った物という意識を持ちにくい。</li> <li>・ 生徒の力に応じて「在庫管理担当」などを設け、製品作りで使用する材料の価格や在庫量などからコストと利潤を考えるようなねらいも設定している。</li> </ul>	
【窯業】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血作りの工程を「指示書」「受注書」などの書類（ツール）を作ることで、言われたことだけをするのではなく、生徒自身が製品作りの今どの辺にあるかを考えながら仕事をしている様子ある</li> <li>・ 地域のカメラ屋さんより依頼を受けて、海外に送るための中古カメラの清掃を始めた。納品に行った生徒が緊張しながらあいさつをする様子に、自分たちが仕事をしたという自信や喜びが見て取れる。</li> <li>・ 求められ、応える経験から育つ責任感</li> </ul>	
【印刷・ビルメンテナンス】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受注書を見て自分の作業を進めていくスタイルを取っている</li> <li>・ 仕事始まりにミーティングを持ち、生徒たちで仕事の分担を確認する</li> <li>・ 技術的に自信が持てない生徒が増加しているのは、基本の技術をしっかりと教えてもらう時間が減っているからではないか。→研修の重要性</li> <li>・ 「先輩に聞く」というのも良い取り組みではあるが、決められた授業時数の中で、技術の向上や気持ちの育ちをねらうためには、生徒任せにするのではなく先生が枠組みをしっかりとマネジメントする必要がある。</li> <li>・ スペシャリスト（任せられることへの自信）を育てるために印刷の仕事は一人の生徒が完成まで一人で作業する練習の時間「研修」が必要。基礎基本をきちんとおさえる中で、早いうちに主体的に働くということを自覚させる。</li> <li>・ あいさつ・返事がなかなか定着しない生徒たち。特性から周りへの関心が薄い生徒も増えている中、自分からあいさつしたいと思えるようにするにはどうすべきか。ある程度「あたりまえのこと」「意識してあいさつしましょう」「これくらいの声の大きさで」などという枠組みも必要なのではないか。</li> </ul>	

ブレインストーミング（１）で共有した「生徒が主体性を持ち卒業後も生き生きと働く生活が続けていけるようにするための力をつける」という目的のもと、１学期の「作業」において各班で実践された指導上の工夫や改善点などが積極的に出された。製品を作るという「作業」のルーティーンを「生徒」に主体をおくことで、新しい取り組みが豊富に生まれていた。また、基礎基本を知ること、わかって動けることの大事さや、生徒自身が考える時間を確保することの重要性なども上がった。これらの思いを共有し、２学期の実践にあたり、冬休み明けにブレインストーミング（３）を行った。

ブレインストーミング（３）「作業」と職業教育	
<p>【エコ・ファーム（農作業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ １年間農作業を経験して、２年目を迎えることなく終わることになるのがもったいない。</li> <li>・ 一方で、２・３年生になり、他の作業班に所属してからも土台となる力をつけているという見方で取り組むことも大事。</li> <li>・ 屋外重労働の仕事ではあり１年間がんばれたことで心も育つことになる。しんどい仕事をするということへのモチベーションはなかなか高まらない現実。</li> <li>・ 技術が上がってくると、与えられた仕事だけではなく畑全体に意識を向けられるようになる。</li> <li>・ 職場の規律なども、１年生だからこそしっかり身につけておきたい。</li> <li>・ 畑仕事に不慣れな教員。作物の育て方、時期、技術などをしっかり研修できるとよい。ゲストティーチャーを望む。</li> </ul> <p>【工芸（さをり織）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初めてさをり織の仕事をするようになった２年生の生徒が、わからないときに、自分から伝えることができるようになってきた。</li> <li>・ 作業内容をわかって、自主的に作業に取り組めるようになってきている。しかし、パターン化された行動にもなっており、さらなる目標設定やアプローチも必要と感じている。仕事効率、工夫、品質などを意識することも大事だと気付かせ、上達させたい。</li> <li>・ 素材を織る仕事だけでなく、現在教員が行っているミシン仕上げなどの技術も、獲得できる生徒にはステップアップとして体験させたい。自分がまかされて責任を持つという姿勢を、喜びとして感じられるようにアプローチしたい。</li> </ul> <p>【窯業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受注から製品を作り納品するという一連の流れを経験することで、責任感が育まれている。</li> <li>・ 「受注書」や「指示書」などの書類を用いることでより仕事を意識しやすい環境となり、視覚的な情報としてもわかりやすくよかった。</li> <li>・ カメラクリーニングに関して、今は締切などを設けず作業をしているが、期限を設定するなどして、生徒自身が仕事効率を考えたり工夫したりできるような取り組み方をしてみてはどうか。</li> <li>・ 自分たちで考え見通しをもつことは、窯業班の取り組みの中ではまだできていない。今後、作業開始時のミーティングを自分たちで進めたり、可能な生徒にはメモの活用などを取り入れたりし、自主的に仕事への取り組み方を選んでいけるようなアプローチも考える。</li> </ul> <p>【印刷・ビルメンテナンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受注も多く、基礎基本が大事である中「研修」の時間は取れなかった。</li> <li>・ 限られた時間の中で技術や思いを育てるために、生徒にどう任せるか、教師のマネジメント力が問われる。</li> <li>・ 和附特の強みは生徒たちの仕事！と言えるよう、仕事に向かう気持ちを育てたい。（和附特の職業教育のめざすところ）</li> </ul>	
<p>Q職業教育としての「作業」で大切にしたいこと</p> <p>任されたことは責任をもってやる力／コツコツと続ける力／ものを作る喜び／任される喜び／仕事に対するプライド・気持ち／状況を見る力／全体を見て関わろうとする力／他者の求めに応えようとする力／認められる喜び／上級生から下級生に技術や大切にしたいことを伝える文化／自ら判断する力／基礎基本の手順／コミュニケーション／自ら相談できる力／「上手にできたね」から「任せられるよ」になるように／生徒の成長を支える教師の働きかけや言葉がけ（フィードバック）</p>	

ブレインストーミング（１）の頃と比較して、「作業」で大切にしたいことがより具体的になり、また働く意欲につながるようなキーワードが多く出ている。作業工程を覚え作業技術が向上してくると、自分で判断したり、大きな流れ（流通）の中で自分の役割を意識したり、他者との関係の中で望ましい姿勢を身につけることなどにステップアップしていくことがわかる。しかし、ここでも教員の「作業」に関する専門性の問題や、仕事を遂行するだけでなく職業教育として生徒にどのような教育的課題を設定すべきか等のマネジメント力が、解決すべき課題として上がってきた。

### ３ まとめと課題

変容する高等部生徒の実態に合わせカリキュラムマネジメントを進める中で、和附特高等部が古くから大切にしてきた職業教育についても、ライフキャリアとワークキャリアの視点で整理することの必要性が感じられるようになった。自分らしさや、大人になることへの期待を大切に学ぶが広がる一方で、「作業」や「現場実習」では、自ら動き出せなかったり、言われたことだけをしたりする生徒が少なくなく、働く事に関しても、近年の生徒の実態に応じた学びをどのように充実させるかを考え、カリキュラムに落とし込んでいく必要がある。

新しい高等部学習指導要領解説<sup>ⅴ</sup>に、「作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。」とあり、「とりわけ、作業学習の成果を直接、生徒の将来の進路等に直結させることよりも、生徒の働く意欲を培いながら、将来の職業生活や社会自立に向けて基盤となる資質・能力を育むことができるようにしていくことが重要である。」と記載されている。

本校で行っている「作業」や「現場実習」も、まさにその仕事に従事するために行っているものではない。自分のためだけでなく、誰かの役に立つことの喜びを感じられる勤労観の育成と、仕事に向き合うことで、達成感を味わうこともあれば、うまくいかない時には相談したり考え、自分なりの工夫をしてより良い結果に結びつけるという経験をするすることで、レジリエンスを高める学びを目的とするものである。

今回、3回のブレインストーミングを行うことで、教員の経験に頼ることが多かった職業教育についての理解と、目的の共有を進めることができた。しかし、その理念を実践に落とし込んでいくためには、障害特性に応じた技術の指導や、生徒自身に考える時間を保障する職業教育の環境整備、さらには、製品やサービスの開発等、教科指導や生徒指導の専門性とは別の専門性を必要とされることが多い。

学校外につながりを持つ中で生まれる生徒の満足感や「仕事へのプライド」の育ち等についてもブレインストーミングで上がっていたが、ゲストティーチャーを招いたり、地域の専門家との連携を行うなどして、教員の研修を増やしたり、協働してもらえる人材の確保に努めることが必須であると考えている。

---

<sup>i</sup> Sコースでは、青年期入口ゆえの心理的な課題を抱える生徒が多く在籍することから、自分の将来について目標を持ち、よりよく自己実現していこうとする意欲など、内面を育てるというねらいで平成24年度よりカリキュラムに取り入れた。他者との関わり合いの中から自己を見つめ、自分らしい生き方を考える力を育む。生徒たちが互いにに関わり合うことを大切にしながら、ともに課題に向き合い、自他の価値観を認め合っていくこと、自分の将来について目標を持ち、自己実現を目指すことができるように指導内容を設定する。同時に、生徒指導上の今日的課題や内在化した心理的課題にも取り組む。

<sup>ii</sup> Fコースの生徒にとって必要とされる、自分の卒業後の生活を豊かにたくましく暮らすための土台づくりとして、「進路」「情報コミュニケーション」「こころとからだ」などの分野における個々の発達に応じた正しい知識を身につけるというねらいで、平成28年度よりカリキュラムに取り入れた。また、学校生活に見通しを持ち、主体的に学習するというねらいで木曜日の「生活」に関する事前・事後学習についても扱う。

<sup>iii</sup> Fコースでは各教科等合わせた指導「作業学習」として、Sコースでは教科「職業」として扱っている。

<sup>iv</sup> 高等部生徒全員が、1年生時より、6月に1週間（5日間）、11月に2週間（10日間）、学校外の事業所において一人もしくはグループで実習を行う。現在ご協力いただいている事業所は40カ所を超え、生徒の教育課題に応じた実習先を進路指導主事が中心となってコーディネートし、企業と連携を取りながら高等部教員全員が指導にあたっている。

<sup>v</sup> 平成30年度新特別支援学校高等部学習指導要領等説明会における文部科学省説明資料